

ウイグル語の助数詞

藤家洋昭 (大阪大学) Reyihan Pataer (甲南女子大学)

1. はじめに

ウイグル語 (Uyghur Tili) は、基本語順 SOV の膠着語で、語・形態素の並ぶ順番は日本語とよく似ている。ウイグル語にも助数詞と呼ぶことのできるものがあることは、文法書や辞書に記述される等、これまでの研究でもかなりの程度明らかになっている [1][4][5][6][9]。しかしながらそれらがどのような性質であり、どのように分類されるかについて、いまだに不明な点も残されている。

本研究ではウイグル語の助数詞を、その機能によって記述する。記述の枠組みに HPSG (主辞駆動句構造文法) を用いる。

2. 助数詞

助数詞とはなにかの定義は諸説あるが、本研究では、先行研究[3]にならい、ウイグル語の助数詞を次のように定義する。

- ・数詞に後続する。
- ・数えられている対象を示す名詞と共起する。
- ・"nechche / qanche" 「いくつ」に後続し、数を質問する意味となる。

大まかに言って、ウイグル語伝統文法において *miqdar* と呼ばれているもののうち、*shey'i miqdar* と呼ばれるものが助数詞に相当すると考えられるが、詳細を見ていく必要がある。*miqdar* と呼ばれるものには他に

hareket miqdar と呼ばれるものがあり、それらは、例えば *qétim* 「回」のように、主として名詞ではなく動詞を修飾するものもあるが、これらは本研究の対象から除く。

2.1 助数詞の分類

助数詞を機能の面から分類した場合、範疇化を主な機能とする類別詞と個別化を主な機能とする計量詞に分けることができる [3]。これまでの研究によると、範疇化とは、数える対象がどのような意味範疇に属しているかを表わす機能である [3]。類別詞はそれが修飾する名詞の意味範疇を明確化する [3]。たとえば、修飾される名詞を明示しなくても「私が見たのは3人です」と言えば、人を見たことを、「私が見たのは3匹です」というと動物を見たことを理解することができる。一方、個別化は数える対象を数や量に分割することである [3]。計量詞は意味範疇に関する情報を持たず、「トラック3台の～」言った場合、分量がトラック3台分であることだけが理解でき、内容が液体なのか固体なのかいきものなのかという意味範疇に関する情報は読み取れない。

伝統的なウイグル語文法 [4] では、*shey'i miqdar* を *sanaq miqdar* と *ölchem miqdar* に下位分類する。これは、対象が、数えられるものに用いる (*sanaq miqdar*)、数えられないものに用いる (*ölchem miqdar*) という分類基準によっていて、本研究の分類とは異なる

る。ただ、*sanaq miqdari* については、何をあるいはどのようなものを数えるかについてが触れられていて、範疇化ということを意識していないわけではない。

3. データ

3.1 要素の配列

はじめに、助数詞を用いる場合、要素がどのような順番で並ぶかを見ておくと、ウイグル語では、数詞-助数詞-名詞の順番で要素が並ぶ。

例：

besh tal qelem

5 助数詞 ペン 「5本のペン」

besh sanduq kitap

5 助数詞 本 「5箱の本」

3.2 助数詞は義務的か

ウイグル語では、助数詞は義務的ではなく、基本的に数詞が名詞を助数詞を介さずに直接修飾することができる[4][5]。

üch kitap

3 書籍 「3冊の本」

3.3 分析対象

本研究では、以上をふまえ、次に示すものを分析の対象とした。

a. 類別詞: *dane* 「個」, *tüp* 「(植物を対象)」, *parche* 「枚」, *tal* 「本」, *zix* 「串」

b. 計量詞: *chélek* 「バケツ」, *sanduq* 「箱」, *baghlam* 「束」, *kilogramm* 「キログラム」, *tonna* 「トン」, *litr* 「リットル」

a. に属するものが類別詞であることを確認しておく。

・*dane* 「個」丸いものの数量を表わすという記述[4]もあるが、実際には丸くないものを対象としても用いられる。*dane* は修辞学的制約があってもそもそもあまり用いられな

い[4]が、動物を対象には全く使えない。

*qanche dane *qoy* 「羊」 / **it* 「犬」 / **éshek* 「ロバ」

細長いものにも使えない。 *qanche dane *yip* 「糸」 / **sim* 「線」 / **yingne* 「針」

・*tüp* 植物を数える。 *qanche түp derek* 「木」 / *alma* 「リンゴ」 / *beseq* 「はくさい」 / *laza* 「とうがらし」

・*parche* 「枚」平らなものを数える。 *qanche parche qeghez* 「紙」 / *yaghliq* 「スカーフ」 / *gilem* 「じゅうたん」

・*tal* 「本」細長いものを数える[9]。 *qanche tal yip* 「糸」 / *yingne* 「針」 / *qelem* 「ペン」 / *tüwrük* 「柱」 / *kawap* 「シシケバブ」 / *sim* 「線」 / *quyruq* 「尾」

次のようなのを数えることはできない。

*qanche tal *kitap* 「本」 / **mashina* 「自動車」 / **uniwérsité* 「大学」

しかし、*öchürgüch* 「消しゴム」のように、少なくとも日本語の感覚では細長いと思えないようなものも *tal* で数えることができる。この理由は今のところわかっていない。

・*zix zix* はもつばらシシケバブを数えるのに用いられる。シシケバブのようなものであれば、やきとりのししとうのようなものであってもよい。反面、*gösh* 「肉」を対象には用いられない。

qanche zix kawap 「シシカバブ」 / *laza* 「ししとう」 / **gösh* 「肉」

次に、b. が計量詞であることをいくつかを例にとって見ておこう。

・*sanduq* 「箱」: *qanche sanduq kitap* 「本」 / *alma* 「リンゴ」

・*baghlam* 「束」: *qanche baghlam kitap* 「本」 / *pul* 「お金」

・*chélek* 「バケツ、桶」: *qanche chélek su* 「水」

/qum「砂」 /alma「リンゴ」

・ mashina「クルマ」: qanche mashina alma「リンゴ」 /qum「砂」 /kömür「炭」 /qoy「羊」 /adem「人」

このように、被修飾名詞の意味範疇に特に制限はない。従来の研究[4]では、数えることができるものとできないもの、という対象の違いによって分けられていたが、実際には bir chélek alma のように、数えることができるものも b.によって表わすことができる。これはやはり対象の違いではなくて、範疇化か個別化かの違いとした方が適当であると考えられ、本研究ではそのように分類する。

3.4 助数詞を用いない場合

ウイグル語では助数詞を介さずに数詞が名詞を直接修飾することができることはすでに述べたが、助数詞を介さないということに関して類別詞と計量詞ではその表わすところが大きく異なる。助数詞を用いた表現から助数詞を削除するとどうなるか見てみると、類別詞を用いたものは、文法的にも問題なく、意味的にも大きな変化はない。

3.4 a. ikki tal qelem ≙ ikki qelem 「ペン2本」

ところが、計量詞を用いた表現から助数詞を削除すると、文法的には問題ない（非文法的になるわけではない）が、表わす意味が異なる。

3.4 b. bir chélek alma ≠ bir alma 「りんごバケツ1杯」と「りんご1個」

以上、ウイグル語の助数詞には類別詞と計量詞があることと、義務性がわかった。

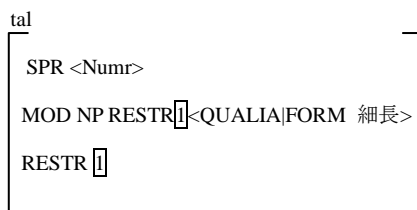
4. 分析

本章では、各助数詞の語彙記述を行う。

具体的には、主辞駆動句構造文法 (Head-driven Phrase Structure Grammar: HPSG[8])の枠組みにもとづき、名詞の意味表示には特質構造 (Qualia Structure[7]) を用いる。

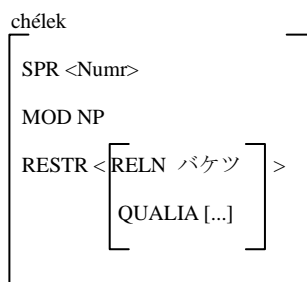
まず、各助数詞は指定部に数詞をとる。そして数詞と一体となったものが名詞を修飾する。

類別詞は、それがとる名詞を選ぶ。名詞の特質構造のうちいずれかを注目する。例えば、tal であれば、「細長い」という形式役割に注目する。ウイグル語ではほとんどの類別詞が形式役割に注目する。ただ、zix については、構成役割に注目していると考えられる（串ざしの食べ物）。いずれにせよ、類別詞そのものの意味は名詞句全体にの意に基本的に関与しない。「細長い」「植物」などは被修飾名詞がもともと持っていた意味（の一部）である。これらのことから類別詞 tal のつぎのような語彙記述が得られる。Numr は数詞を、Countr は助数詞を表わす（意味記述を簡略して必要な情報だけに限っている）。

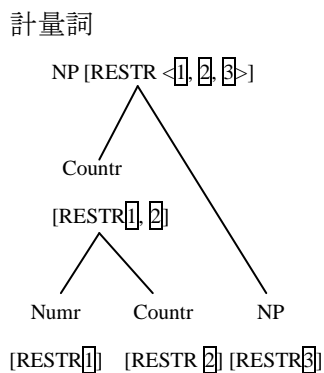
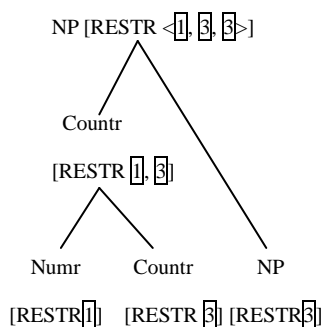


計量詞は、基本的にそれがとる名詞を選ばない。したがって修飾するものは単に NP であると考えられる。その一方で、数詞が直接修飾するのは計量詞であって NP ではない。全体の意味にも計量詞の意味がかかわってくる。これらを形式化すると次のような語彙記述が得られる（意味記述を簡略

して必要な情報だけに限っている)。



類別詞は、名詞がもっている意味のうち何をとってあるかということはあるが、新たな情報を加えることはない。一方、計量詞は *chélek*「バケツ」, *sandug*「箱」などの、数詞にも被修飾名詞にも含まれない新たな情報を NP に付け加える。これらの語彙記述と意味的構成性原理 (Semantic Compositionality Principle) によって、助数詞が数詞と組み合わせたり NP を修飾した場合次のような RESTR 値が得られる。(単純化のために名詞本体の意味を省略している)



3.4 a.と 3.4 b.の違いは以上のように記述される。

5. 結論

ウイグル語の助数詞を記述した。

ウイグル語の助数詞は、類別詞と計量詞の二種類があり、それらの性質の違いを語彙項目の違いで明らかにした。

参考文献

- [1] 飯沼英三 (1992) 『ウイグル語辞典』 穂高書店.
- [2] 影山太郎 (編) (2011) 『日英対照 名詞の意味と構文』 大修館書店.
- [3] 眞野美穂・米澤優(2013)「生成語彙理論による助数詞の分析」影山太郎 (編)『レキシコンフォーラム No. 6』 ひつじ書房.
- [4] Arslan Abdulla (ed.). (2010). *Hazirqi Zaman Uyghur Tili*. Ürümchi. Shinjang Xelq Neshriyati.
- [5] Arziyev R. (2006). *Uyghur Tili*. Almuta. Mektep.
- [6] Masaow Kojima, Ghalip Qutluq, Kamalidin Nizamidin, Qahar Samsaq, Xelchem Qutluq (ed.) (2010). *Uyghurche-Yoponche Lughet*. Ürümchi. Shinjang Xelq Neshriyati.
- [7] Pustejovsky, James (1995). *The Generative Lexicon*. Cambridge, MA. The MIT Press.
- [8] Sag I. A. & Wasow T. (1999). *Syntactic Theory: A Formal Introduction*. CSLI.
- [9] *Uyghur Tilining Izahliq Lughiti*, Ürümchi. Muellim.